

安曇野市は、国連が掲げたSDGs達成に向けて地域の特色や強みを生かし、積極的に取り組む自治体として昨年、国から「SDGs未来都市」に選定されました。同時に、里山再生計画「さとぶろ。」を中心とした「里山からつながる安曇野共生プロジェクト」がモデル事業としてダブル選定されました。市では、2024年～2026年までの取り組みとして、SDGs未来都市計画を策定し、豊かな自然や継承されてきた地域文化を安曇野ならではの産業に生かすことを目指しています。そ

して、誰一人取り残さない「共生」という視点を持ち、持続可能で誰もが幸せにずっと暮らし続けられるまちづくりのために取り組みを行っています。私たちの今の暮らしを守り、未来へつなげていくために、この20周年の節目をスタートとしてさらに20年先そしてその先も幸せで暮らして行けるよう皆さんと共に歩み続けます。



里山からつながる安曇野共生プロジェクト

経済、社会、環境の3側面の好循環を生むモデル事業の中核を担う、里山再生活動「さとぶろ。」。4つのプロジェクトのもと里山で楽しむイベントの企画・運営など、里山との関りを深める活動をしています。安曇野の里山に多くの人が集い、楽しみ学ぶ、保全するなどの体験から安曇野の里山に携わるきっかけづくりや体制整備を進めています。

経済

東部アウトドア拠点の構築

明科地域の活性化を目的にアウトドアスポーツの拠点となる施設整備に向けて計画的に事業を進めています。同時に前川周辺でカヌーやラフティングなどのスポーツに親しむイベントなども開催。にぎわいの創出がやがて地元回帰、人口増加につながっていきます。



社会

認定こども園で自然保育体験入園

安曇野へ移住を検討している人を対象に本年6月から自然保育体験入園をスタート。安曇野ならではの自然を生かした特色のある保育に加え園周辺の住民との交流や地域の魅力を実際に感じることが出来ます。安曇野への移住を増やすと共に未来を支える子どもたちの感性を磨きます。



インタビュー

三宅雅也さん（53・穂高有明）



ニホンザル追い払い隊やさとぶろ。サポーターとして、里山の保全活動などを行っている三宅さんに思いを聞きました。

かなりの熱量で活動を重ねてきたことで、群れごとの特徴や逃走ルートをほぼ把握できています。緩急つけた迫り方でサルの子の意表を突くフォーメーションを組み、点ではなく面で追うことで逃走方向を制限するなど、戦略的な迫り方で想定どおりにサルを移動させることができるように。とは言え、野生動物との駆け引きに裏をかかれることもあります。そんな時、近所の皆さんの情報提供や「おつかれさま」「がんばって!」などの声援がエネルギーとなっています。また、さとぶろ。では、クマ回避を目的とした緩衝帯づくりの樹木伐採に取り組んだことがありますが、山と里の境界を明確にすることは、野生動物との共存で重要なこと。このような組織的な取り組みに加え、人にとっては廃棄物でも、野生動物にとっては魅力的なエサとなります。それらを置かないなど、一人一人が小さな行動を実践する。こうした積み重ねが、安曇野の自然と暮らしを守る未来へとつながっていくと考えています。



ニホンザル追い払い隊の活動を行う三宅さん

環境

ニホンザル追い払い隊による野生鳥獣との共存

西山山麓のサルによる被害を食い止めるため「ニホンザル追い払い隊」を組織し野生鳥獣との共存を図っています。これによりずっと守るべき田園風景や山の保全につながり人と自然が共生できる安曇野を作ります。

